第5回	作手地域協議会	地域自治区予算検討で出された意見	

	第5回 作手地域協議会 地域自治区予算検討で出された意見 					
柱	班	目標とする姿やゴール (こうなりたいね。これがよいよね。など目指す姿を具体的に)	そのために必要な取り組み			
柱1 地域の特性を守り活かし、 活気あふれるまちづくり (農業・林業・自然環境)	1・2班 合同	〇目指せ香嵐渓! 〇訓練した犬などを放し飼いして、鹿やイノシシを追い払う 〇作手の野菜をブランド化 〇休耕田に羊を飼う。(リース、草を食べてもらうため) 〇村有林が荒れているので、山の手入れしながら有効に使う、チップ等。(作手の木は質が良い。) 〇昆虫が集まる気があるとよい、クヌギなど。 〇ドローンを飛ばせる所が欲しい。子供たちの体験できる場所。 〇ドローンの人材育てる。 〇山林+下草刈りしない、羊を使った。 〇林業、観光、畜産に繋がる。	 一つの山を思い切って、桜やもみじ、クヌギなど紅葉樹の山を作る。 桜、もみじなど配布してほしい。 農産物に「つくで高原」などのロゴを入れて、ブランド化。 SNSで集客を図り、ボランティアなどを活用して行う。 イベントとして結びつける。 			
柱3 助け合い支え合い、安心し て暮らせるまちづくり (安心・安全 防災・防犯)		○安心して生活できる 泥棒被害をなくす―住民同士が疑わず、信頼して生活できる 【現状・課題】 賽銭泥棒、魚(アマゴ)やチェーンソーの盗難がある。	取り組んでいるもの ・防犯カメラの設置 ・扉を変更するなど賽銭箱の設置環境を工夫する			
	O IJI	 ○ボランティアの世代交代 こどもの通学見守りや青パトなど作手全体のボランティアの世代交代 【現状・課題】 ・バスの子は家の前で乗り、学校の手前で降り歩いている。そこからスクールガードと一緒に歩いている。とてもありがたい。 ・ボランティア(子供の通学見守り、青パトなど)の世代交代が課題。5年10年後に次の人へ繋げれるか不安。 ・高齢化で民生委員を選出するのも難しい。時代は変わっているので、制度をどうにかできないのか。 	・現役世代(男女とも)を地域活動へ参加していただける「何か?」を考えていく必要がある。(各地域の活動はやっているが、作手全体のボランティアなど)			
	3班	 ○災害時、孤立したらどうするのかの意識統一 ○公助を待つまで(数日間)の近所の防災コミュニティづくり 【現状・課題】 ・防災、災害時一孤立、孤独死、超高齢化に対する不安 ・一人暮らしの高齢者も安心して暮らせるように。 ・作手は高齢化の先進地。 ・協和地区は孤立の可能性が高い。 	 区長会やコミュニティなどで防災の講習会・座談会を開催する。 ・先行事例(すでにやっている地区)の防災計画(どんな準備が必要か、何をしておかないといけないかなど)などを広め、各区でそれを参考に作成していく。(発災してから援助がくるまでの数日間を地域でどう過ごすのか。など。) 			
		 ○美しい景観を保つ ⇒安心な暮らし・防災・犯罪抑制に繋がってくる 【現状・課題】 ・空き家は崩壊や火災が心配。 ・耕作放棄地が草が生い茂っている。 	取り組んでいるもの ・市で取り壊すように促している。			

		〇子育てしやすい、移住定住、使える交通手段	・バスの通学補助や下宿補助
柱3		【意見】	• 市で横浜ゴム社員寮を高校生向け寮として活用を検討。
		• PTAの会員より、男子: 寮・下宿の整備、女子: 通学費の補助が欲しいと声がある。(田	
助け合い支え合い、安心し		原市や設楽町、豊田市などは、通学補助がある。)	
て暮らせるまちづくり			
		・作手から他地域へ通学する子や家族のことも考える。過去には高校への送迎の件で、引っ越	
(安心・安全 防災・防犯)		した家族もいた。子育て充実の面は定住移住にも繋がる。	
		有教館高校作手校舎の存続ができなくなると、バスはどうなるのか。	
		• 豊鉄バスとデマンドバスの共存や連携ができるか。 デマンドバスとデマンドバスを繋ぐなど	
		・公共交通対策課の人にも基本的なバスの決まりを聞く。	
		・バスの関係で、できることできないことを知ることも必要。S バスも、昔に比べれば朝便と	
		夜便が増えている。時刻の調整で対応できるか。	
		・テスト期間や部活動など、どうしてもバスが使えず、作手地域は親の負担が多い地域である。	
		・デマンドで、新城地区まで行けるとよい。作手地区からデマンドは出れないなら、和田のあ	
		トりで、新城地区のバスと乗り継げるとよい。 	
		•田峯や下山まで特例でデマンドバスが行けるようになった。これまで、豊田東高校や田口高	
	4 T.IT		
	4班	校への通学にデマンドが利用されている。	
		・下宿の件は、横浜ゴムの寮(カーマ横)が、空きが多く、市へ活用を相談されたと聞きまし	
		た。市全体の高校生などの寮として、市も活用を考えてほしい。作手に住む人も、作手校舎	
		に通う人も利用できる。	
		• 高齢者の外出もデマンドバスをもっと活用するようできるとよい。	
		「同即台の外山もノインドハスをもりに泊用するようにさるによい。	
		│○災害時に向け、準備ができている状態(避難、医療)	• 支援制度の周知
		・ 高齢者世帯の把握⇒消防団で把握している。(申請されてないと分からない)	・行政区ごとに災害時の見守り体制など必要なので、既に計画や
		・野郷区や見代区は、災害時の安否確認の方法や避難の体制づくりが出来ていると聞いてい	
		る。	整える。
		・常日頃から高齢者と子供や若者との関りをつくることが、災害時にも役に立つ。	・高齢者と子供の交流の場の創出。
		 ○医療体制の敦樹	 ・診療所の診察などの改善。
		○医療体制の整備	* 砂原別の砂奈などの以音。
		・家族がインフルやコロナにかかっていると、その家族が診察を受けようとすると薬は車でも	
		らえるが、診察が受けられない現状がある。	
柱4			来るまでの景色が分かるようにできたら良い。
'- '			トレッキングマップの整備
情報発信(関わる人や訪れ			
る人を増やし、次世代へつ		〇一度来訪された方が、2回目来てみようと思える情報(パンフレット)等	•情報館に何でも分かる情報マップがあると良い。(観光マップ)
なぐまちづくり)			情報モニターの設置。
			13112 = 3 13223
			 空き家情報の充実、もっと分かりやすい発信。
		O主と多列来として、情助並ではやしてがと 「かしたり良い。	
	5班		リノベーション費用補助金があったら良いのでは。
		│ │○作手の人の魅力を伝える。	 人にスポットをあてたコンテンツを作ってみては。
			人に入れず「をめてにコンテンフを作っていては。
		し	 シール、スタンプを人や場所に出会ったらもらえるようにする。
		OCCにバブでですの良いにとつが刃がると良い。	シール、人ダフノ佐人で場別に正去りたりもりんるよりにする。
			 交流館の活用(長居できるように)。